

令和6年度 町長施政方針

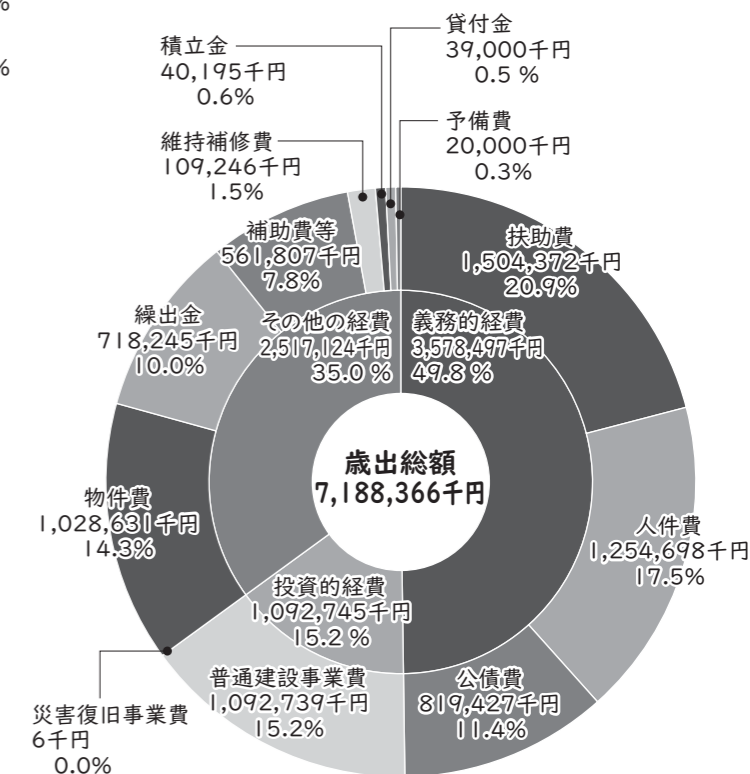
吉田町長は、3月4日（月）に開会した令和6年第2回坂町議会定例会で、令和6年度方針を述べました。その内容と坂町教育委員会の教育行政方針を要約して、ご紹介いたします。

なお、坂町ホームページや役場企画財政課で全文を閲覧できます。



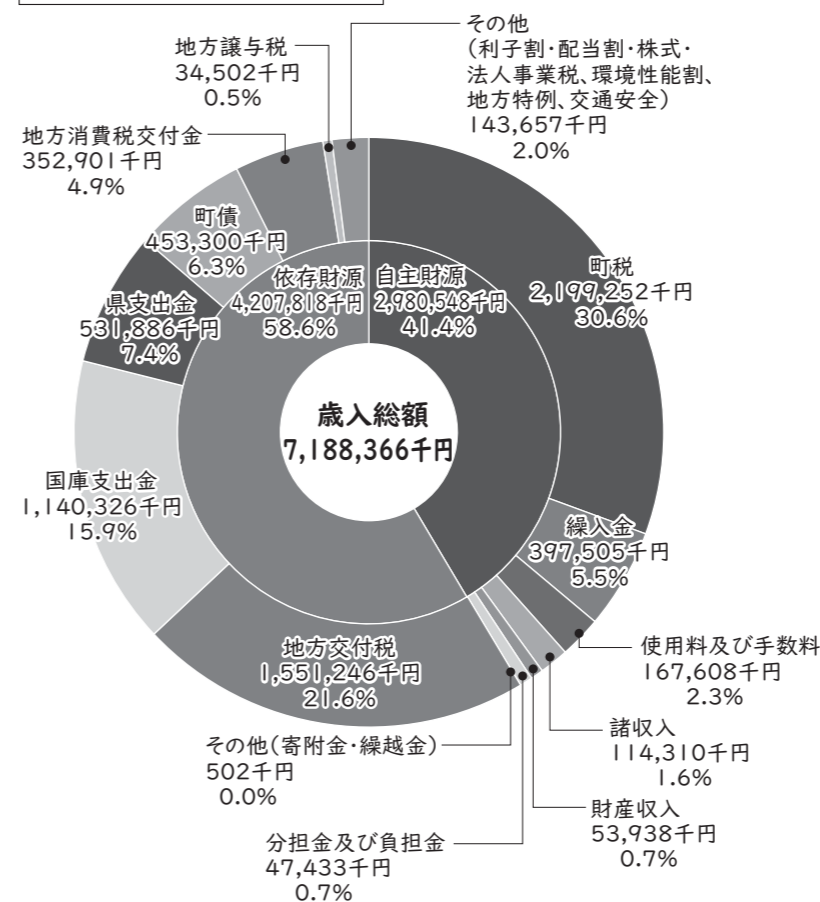
吉田町長

歳出の性質別構成

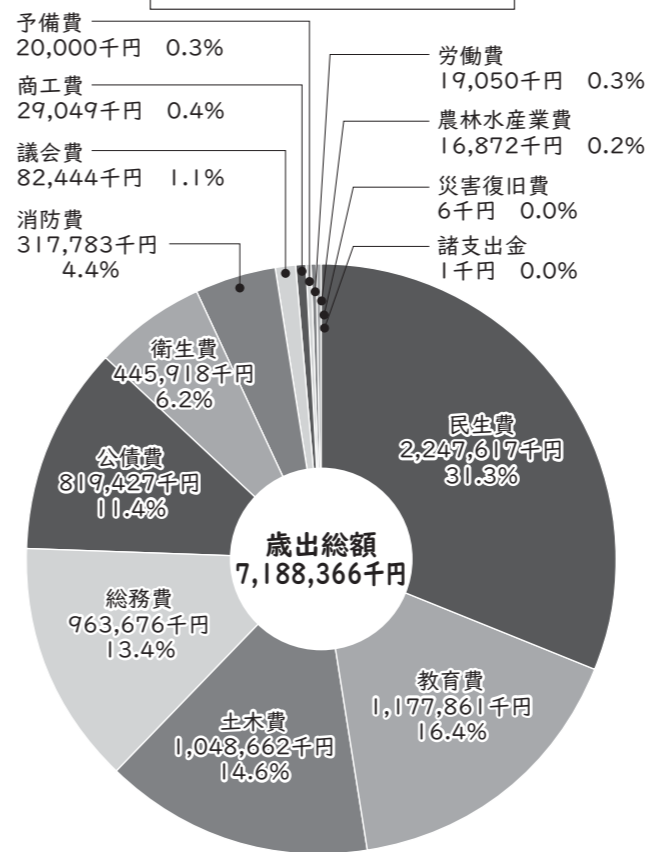


令和6年度 当初予算

歳入の構成



歳出の目的別構成



町長施政方針

はじめに

平成30年7月豪雨以降、被災からの復旧や新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行に伴い、感染者の行動制限がなくなるなど、平時の状況を取り戻しつつあります。

しかしながら、物価高騰や円安の影響は根強く、本町を取り巻く経済状況は、厳しさを増しております。

こうした状況を踏まえ、本町では、令和4年度に引き続き、物価高騰の影響を受ける家計や事業者等の負担を軽減すべく、子育て重点支援坂町くらし応援クーポン券事業や給食費支援事業、中小企

業支援緊急対策事業など、町独自の様々な支援施策を機動的に実施してまいりました。

今後、物価高騰、円安等の経済情勢などを見

極めながら、地域密着住民密着を常に念頭に置き、臨機応変に町民生活を守り抜く施策を講じてまいり所存でございます。さらに今後は、本格的に復旧から復興へと舵を切り、復興への象徴であるベイサイドビーチ坂の物販飲食施設オープンを契機として、この勢いを止めることなく、町民の皆様とともに「がんばろう坂町」を合言葉に、将来に向け、町民が希望を抱けるよう全身全霊で邁進してまいります。

復興に向けて必要不可欠な原動力は、坂町の将来を担う子どもたちです。子どもたちの健やかな成長を支援し、子育て世帯の経済的負担を軽減するため、こども医療費助成制度の拡大・充実や給食

費支援事業、また、安全で充実した教育環境を整備するなど、子ども・子育て施策を強力に推進してまいります。

また、人口減少や少子高齢化に対しては、保健福祉の総合相談窓口の設置や多機能型障害者施設の整備、坂町循環バスの土曜日運行など、誰もが健康に暮らせ、快適な生活が送れる環境の整備を推進してまいります。

さらに、被災から人口減少が続く小屋浦地区の活性化に向けた取組を本格化させるなど、復興に向けた諸施策を多角的に講じてまいります。

また、本町の課題である地域間の格差の解消と、均衡ある地域の発展、次世代に向けた持続可能な地域を構築するため、県道坂小屋浦線を骨格とした「道路整備」や、土砂災害防止のための「危険箇所整備」、砂防堰堤などを含む「河川整備」の三位一体の防災対策を引き続

き、推進してまいります。

こうした取組を着実に進めるためには、財源を安定的に確保することが必要となりますが、国・県の補助金・交付金も極めて厳しい状況の中、財源確保が困難な場合には、議会の皆様と御相談をしながら、事業の性格に応じた新たな財源についても検討していかねばならないと考えております。

本町では、令和3年10月に「坂町DX(デジタル・トランスフォーメーション)推進計画」を策定し、行政広報のデジタル化をはじめとし、町内公共施設オンライン予約システムの導入、子育て・介護関係の行政手続きのオンライン化など、着実に、デジタル技術の導入による住民利便性の向上に取り組んでまいりました。

令和6年度におきましては、こうした取組を更に進め、単なるデジタル化にとどまらず、デジタル技術の導入により、業

務そのものを革新する「トランスフォーメーション」の実現を念頭に、まずは、住民との接点である「窓口改革」を重点的に進め、窓口手続等支援システムやキャッシュレス決済等の導入により、住民の皆様のさらなる利便性向上及び負担軽減に努めてまいります。

一方で、デジタルの活用に伴う不安を抱かれる高齢者等が取り残されることのないよう、引き続き、スマートフォン教室の開催などを通じ、デジタル技術に慣れ親しんでいただくことで、坂町ならではの「人に優しいデジタル変革」を積極的に推進してまいります。

まちづくりの基本は、人と人のつながり、地域との協働が重要でございます。各地区住民福祉協議会とも更なる連携を深め、住んでみたい町、住み続けたい町となるよう、親から子へ、子から孫へと歴史・文化・地域を守り、